

人生100年時代 元気に過ごすために

予防 治療 働き方 につなげる 人間ドック

令和3年4月から65歳までの雇用確保が義務、70歳までの就業確保が努力義務になりました。働く高齢者が自らの健康状況を理解し、それに合わせた働き方を考える必要があります。例えば、車に安心・安全・快適に乗り続けるためには点検が欠かせません。同じように、人も定期的に健康診断を行い、メンテナンスをする必要があります。

健康診断と人間ドック

会社に勤めている人は、労働安全衛生法に基づいて年に1回定期健康診断が義務付けられています。40歳以上の自営業の方や健康保険被扶養者の方などは、法律に基づいてご加入の健康保険の保険者で実施される健康診断を任意で受けられます。

しかしこれらの健診の検査内容は「身体計測」「血液検査」「尿検査」「胸部X線」など基本的なものが中心で内容

が限られていますので、体全体をチェックするには限界があります。

一方、人間ドックでは検査項目も多く様々な病気の早期発見が可能となります。例えば生活習慣病と言われる糖尿病、高血圧、高脂血症といった病気やがんなどの芽を早期に発見し、治療に結び付けてもらう事が人間ドックを受ける大切な目的の一つです。

人間ドックを受けることで見つかりやすい病気

肝臓、胆のう、^{すい}膵臓、腎臓等の腫瘍など

腹部に超音波をあて、反射波を画像化し内臓の状態をみます。肝臓・胆のう・膵臓・腎臓などを見て、結石、ポリープ、腫瘍などが発生していないかを調べます。また経年観察することで、大きさや数などの変化が確認できます。



子宮頸^{けい}がん

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因と考えられており、子宮の入り口の付近で発生します。膣口から細い器具を挿入し子宮頸部の粘膜から細胞を採取して、顕微鏡で調べる検査です。初期には自覚症状がほとんどなく、子宮がん検診の際に発見されることが多いです。

脳疾患(未破裂脳動脈^{りゅう}瘤、脳梗塞、脳腫瘍、脳萎縮など)

脳の中の状態を調べるためにMRI(磁気共鳴断層撮影診断)とMRA(MRIによる血管撮影)による検査を行います。主に脳血管の破裂リスクとなる「脳動脈瘤」、血のかたまりで血管が詰まる「脳梗塞」、そして「脳腫瘍」や「脳萎縮」などの有無を調べることができます。

前立腺がん

前立腺がんとは男性にだけ存在する前立腺から発生するがんです。高齢者に多く、約90%が60歳以上の方で、近年増加傾向です。前立腺腫瘍マーカーであるPSA(前立腺特異抗原)を血液検査で調べることにより無症状でも発見されるようになりました。

肝炎

B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスとは、肝臓に慢性的に炎症を引き起こすウイルスです。感染すると高い確率で慢性肝炎に進み、その後長い経過を経て肝硬変や肝臓がんに進展する危険性の高い病気です。これらのウイルスに感染しているかどうかは血液検査で調べることができます。